



実用新案登録願

昭和 年 月 日

特許庁長官殿

1. 考案の名称

エレベーターのかご枠

2. 考案者

住所

愛知県稲沢市菱町1番地
三菱電機株式会社 稲沢製作所内

氏名

大 蔵 正 篤

(外1名)

3. 実用新案登録出願人 郵便番号 100

住所 東京都千代田区丸の内二丁目2番3号

名称 (601)三菱電機株式会社

代表者 進 藤 貞 和

4. 代理人 郵便番号 100

住所 東京都千代田区丸の内二丁目2番3号

三菱電機株式会社内

氏名(6699)弁理士

葛 野 信 一

(外1名)

(連絡先 03-43760951 許可)

5. 添付書類の目録

(1) 明細書	1通
(2) 図面	1通
(3) 委任状	1通
(4) 出願審査請求書	1通

1行抹消

52 160507

54-85662

明 細 書

1. 考案の名称

エレベータのかご枠

2. 実用新案登録請求の範囲

(1) エレベータのかご床を支持する支持枠と、かご堅枠との間をなゝめ控えにより連結する構成において、前記なゝめ控えを取付ける取付け位置を複数個所に設定させ、各取付け位置を選択して同一形状、寸法のなゝめ控えを使用できるようにしたことを特徴とするエレベータのかご枠。

(2) 堅枠上に、なゝめ控えの上端部を取付けるための、複数の取付け穴を形成させたことを特徴とする実用新案登録請求の範囲第1項記載のエレベータのかご枠。

(3) 堅枠に設けた耳板上に、なゝめ控えの上端部を取付けるための、複数の取付け穴を形成させたことを特徴とする実用新案登録請求の範囲第1項記載のエレベータのかご枠。

(4) 支持枠上に、なゝめ控えの下端部を取付けるための、複数の取付け穴を形成させたことを特

徴とする実用新案登録請求の範囲第1項記載のエレベータのかご枠。

3. 考案の詳細な説明

この考案はエレベータのかご枠に関するものである。

エレベータのかごは、一般に客先の仕様により工事毎にそのサイズが異なっていることが多く、このかごを支えるかご枠構成部材の形状、寸法もまた規格化し得ないものであつた。

従来のエレベータのかご枠の構成を第1図および第2図に示してある。これら各図において、(1)は乗かご、(2)はそのかご床、(3)は防振ゴム(4)を介してかご床を支持する支持枠、(5)はこの支持枠(3)を保持する下枠、(6)はこの下枠(5)の両端に各々固定されて上方に延在する堅枠、(7)はこれら堅枠(6)の上端部相互を連結している上梁、(8)は前記支持枠(3)と堅枠(6)の中間部とを連結するなめねじ、(9)はかご枠上下両側に配された案内具、(10)は前記上梁(7)に取付け板を介して結合されたロープシヤックル、(11)はこのロープシヤックル(10)を介

してかご装置を吊持する主ロープである。

こゝで前記なゝめ控え(8)は、第2図から明らかのように、堅棒(6)の中間部両側に耳板(6a)を溶着し、この耳板(6a)になゝめ控え(8)の上端をボルト・ナット(8a)で締結させ、かつ下端ねじ部を支持棒(3)に枢着したソケット(12)を通してナット(8b)で締結してある。

しかしてこの種かご装置での吊心は、堅棒を重心位置に配置する関係から、かご開閉戸相当の重量分だけ前方にかたよるために、なゝめ控えの長さもまた前後で異なり、前側が短かくかつ後側が長くなるもので、同一長さのものを利用しようとして、長い方のなゝめ控えに合わせて短い方のなゝめ控えを作製し、そのねじ部を長くすると、ナットのねじ込み量を多くしなければならず、作業時間が増し、かつ床下方向へのねじ部突出量が長過ぎて、据付後のビット作業時に危険でもある。従つて1台のエレベータでも、そのなゝめ控えとして長さ L_1 、 L_2 の2種類を少なくとも必要としており、さらにこのなゝめ控えの各長さが工事

毎に異なるときなどには、これに対応した種類、数量のストックを要し、極めて生産性の低いものであつた。

この考案はこのような従来の実情に鑑み、規格化した同一形状、寸法のなゝめ控えを、致多くのエレベータかごに通用させるため、このなゝめ控えの取付け位置を変更できるようにしたかご枠を提供するものである。

以下この考案に係わるかご枠の一実施例につき、第3図および第4図を参照して詳細に説明する。

これら第3図および第4図において、前記第1図および第2図と同一符号は同一または相当部分を示しており、この実施例ではなゝめ控え(8)として同一形状および同一寸法L3のものを利用し、このなゝめ控え(8)の上端部をボルト・ナット(8a)で取付けるための耳板(6a)上に、位置をかえた複数の取付け穴(13a),(13b)を形成させたものである。

すなわち、このように耳板(6a)上の位置をかえた複数の取付け穴(13a),(13b)のいずれかを選択

することにより、第3図あるいは第4図にみられるように各取付け穴(13a),(13b)の各々と、ソケット(12)との間の実質的な距離を各々に変更させることができ、これによつて同一形状、寸法のなゝめ控え(8)、換言すると規格化された同一のなゝめ控え(8)を共通に使用し得るのであり、さらに工事毎にかごサイズが異なる場合についても、全く同様にこの構成を適用できるのである。

こゝで前記耳板(8a)上での取付け穴位置については、上下に2個所の取付け穴(13a),(13b)を配した場合を示してあるが、より以上の複数個所に形成してもよく、また特に耳板(8a)を介在させずに、壁枠(5)上に複数の取付け穴を直接形成しても差支えないこと勿論であり、さらに場合によつては、ソケット(12)の枢支位置を支持枠(3)上に複数個所としても、あるいはこれら両者を任意に組み合わせる利用しても同様の作用、効果を果し得るのである。

以上詳述したようにこの考案によるときは、かご枠の一部を構成するなゝめ控えの取付位置を、

設定された複数個所のうちから任意に選択することにより、従来、1つのかご毎にまた各工事毎に各々異なる長さのなゝめ控えが必要であつたのに対し、同一形状、寸法の規格化されたなゝめ控えを用意することで間に合うために、かご枠製造の生産性が向上し、かつ据付け時にも突出長さなどに留意する必要がなくなつて作業性がよくなり、ひいてはビット作業時の安全性をも充分に確保できる利点を有し、さらに全体構成も簡略化でき、容易かつ安価に実施できるなどの特長を有するものである。

4. 図面の簡単な説明

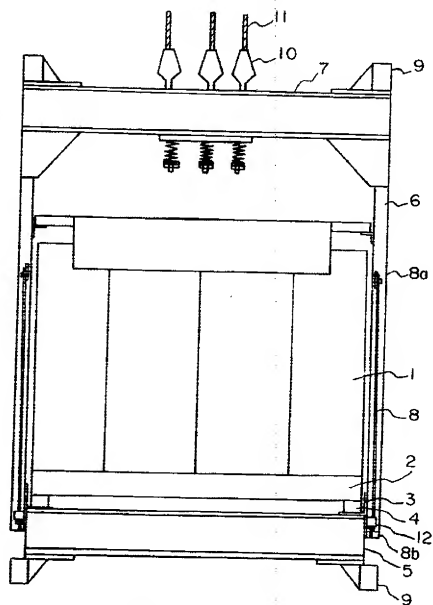
第1図は従来のエレベータのかご装置を示す正面図、第2図は同上側面図、第3図および第4図はこの考案に係わるかご枠の一実施例を適用したかご装置の各別の使用形態を示す各々側面図である。

- (1)・・・乗かご、(2)・・・かご床、(3)・・・支持枠、(4)・・・下枠、(5)・・・堅枠、(6a)・・・耳板、(7)・・・上梁、(8)・・・

なゝめ控え、(8a)・・・・・・ボルト・ナット、(8b)
・・・・・・ナット、(12)・・・・・・ソケット、(13a),
(13b)・・・・・・取付け穴。

代 理 人 葛 野 恒 一 (外1名)

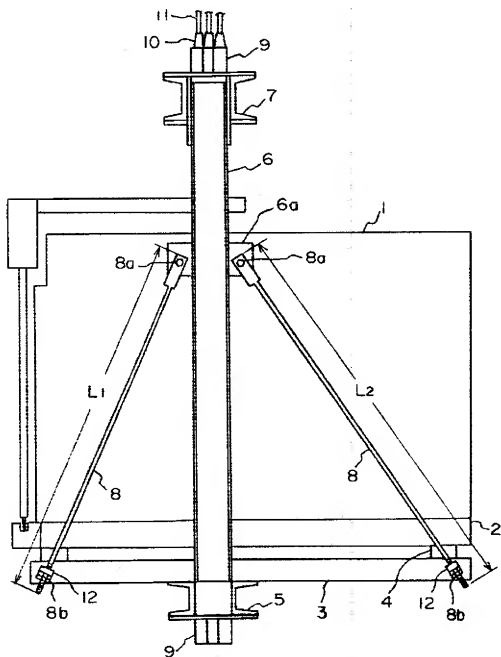
第1図



代理人 葛野 信一

85662 / 4

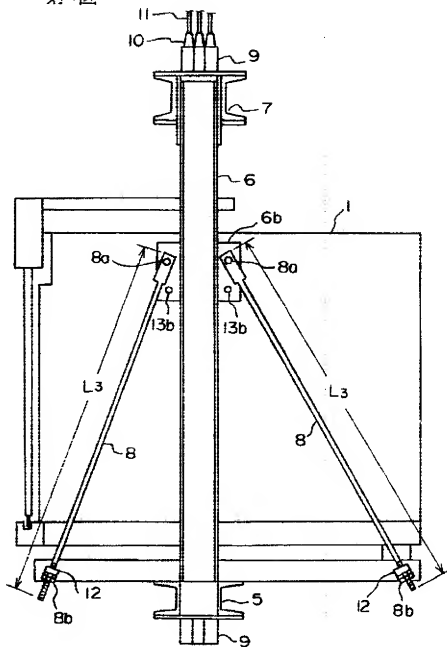
第2圖



代理人 島野 信一

85962 3/4

第4図



4/4
信 野 葛 人 理 氏

6. 前記以外の考案者、実用新案登録出願人または代理人

考案者

住 所

イナヅマ シロ
愛知県稲沢市菱町1番地
ミツデンケン ヤ
三菱電機株式会社
イナヅマセイゴケンロノイ
稲沢製作所内

氏 名

ウメ ムラ セツ オ
梅 村 節 郎

代 理 人 郵便番号 100

住 所 東京都千代田区丸の内二丁目2番3号

三菱電機株式会社内

氏 名(7375)弁理士 大 岩 増 雄

54-85662